ENCYCLOPEDIA OF MENSWEAR,
SEWING AND MAKING PATTERN

メンズ技術大百科

シャツ編

SAMPLE

井口喜正　著

この度は、メンズ技術大百科-シャツ編-のサンプルをダウンロードして頂き、ありがとうございました。

当サンプルには、オープンシャツ縫製工程No.21～No.45までの合計8ページを掲載しています。本編をそのまま抜き出したものである為、ページ数の表示は変更しておりませんのでご了承ください。

少ないページ数ですが、メンズ技術大百科のクオリティを確認する上での参考にしてください。

尚、当サンプルに関しては、自由に再配布していただいて構いませんが、著作権は放棄しておりませんので改変はしないようにお願いいたします。

それでは、少しの間、メンズ技術大百科にお付き合いください。

井口　喜正

【工程No21】衿を表側身頃ネックラインと仮縫い止め

【工程No21説明】
※この箇所はとても難しい工程になります。しかし、高度な縫製工程でも躾仮縫い止めを行うことで作業を容易に進めることが出来ます。

※表衿と地衿を２枚合わせた状態で地衿を内側にして表身頃のネックラインに躾仮縫い止めをします。

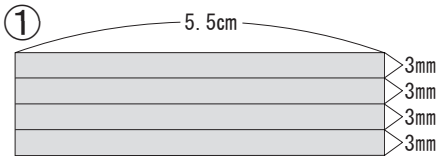
【工程No22】衿を身返しとヨークのネックラインに挟み込み躾止め

【工程No22説明】
※衿をネックラインで挟み縫いにするため工程No21で行った部分の反対側も躾仮縫い止めをします。但し、この作業は表ヨークの間に衿が入り袋縫い状態になるので、難しい作業になります。ヨーク丈が浅い場合は更に難しくなります。その時は、事前にヨーク丈を長くしておくか、仕様を変えて表側になるヨークは後でコバステッチで止める方法で作業を進めてください。

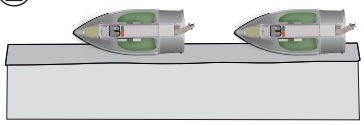
※ヨークにステッチを入れたくない場合は当テキストの仕様で作業を行ってください。

【工程No23】チーループ布アイロン折り

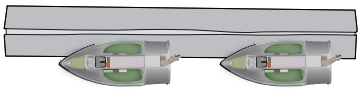
①



②



③



【工程No23-①説明】
※長さは縫い代を入れて5.5cmで15mmの釦を想定しています。巾は3mm出来上がりなので、4辺必要になります。

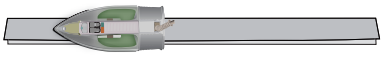
【工程No23-②説明】
※上部を3mm折ってアイロンを掛けます。3mm巾が平行になるようアイロン折りを行ってください。

【工程No23-③説明】
※アイロン折りを行った時、チーループの断ち切り中心が突き合わせになるように折ってください。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

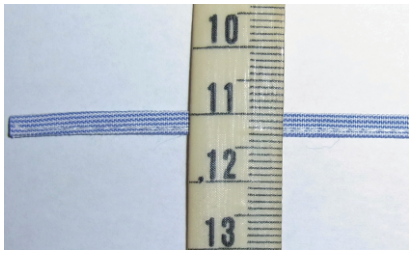
【工程No24】チーループコバステッチ掛け

④



【工程No23-④説明】
※中心から更にアイロン折りを行います。折った端はずれないよに揃えてください。

【工程No24説明】
※かなり端にミシン地縫いを行うので脱線しないように注意してください。



【工程No25】チーループアイロン折り

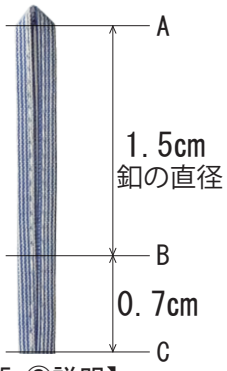
①

【工程No25-①説明】
※チーループ布を直角にアイロン折りします。

②

【工程No25-②説明】
※次に左側をアイロン折りするとチーループの出来上がりです。

③



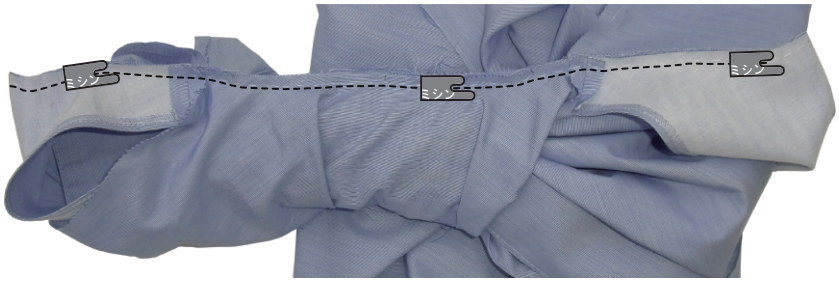
【工程No25-③説明】
※出来上がったチーループの長さは、A～B釦の直径、B～Cは縫い代になります。

【工程No26】左フロント上部チーループ挟み込み

【工程No26説明】
※躾仮縫い止めが終わる少し手前でチーループを挟み込み、止めて完了です。

※チーループはフロントのワの部分に沿って曲がらないように止めてください。

【工程No27】衿とネックラインミシン地縫い



【工程No27説明】
※左から右のネックラインにミシン地縫いを行いますが、間に入っているチーループが曲がったり、または衿に芯を貼っている場合は少し硬くなりチーループが潜ってしまうことがあります。その結果、縫い代の巾が異なってしまうので、目打ち等で調整しながら縫ってください。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No28】表側ヨーク肩ミシン地縫い

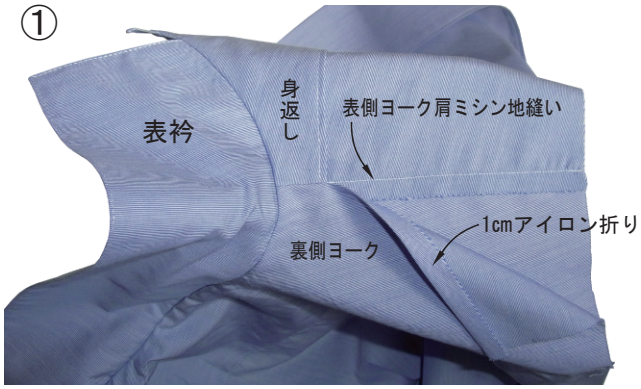
【工程No28説明】
※ミシン地縫いは縫い易い方向から行ってください。

※肩は横バイアスなので引っ張って伸ばしたり、ミシン調子の不備でパッカリングを起こさないように注意してください。

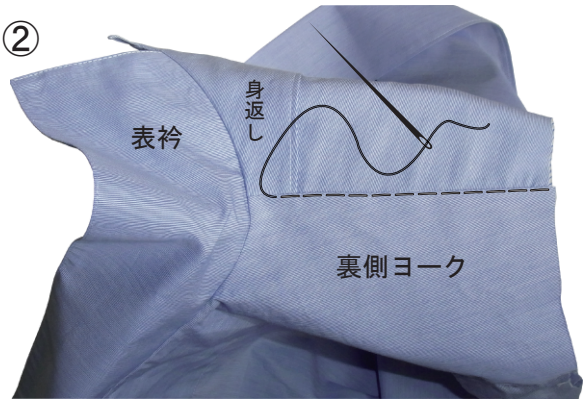
※既に縫ってあるネックポイント側のミシン地縫いに繋げるようミシン地縫いを行ってください。

【工程No29】裏側ヨーク肩仮縫い止め

①



②



【工程No29-①説明】
※裏側ヨークの肩縫い代を１cmの巾でアイロン折りしてください。前工程で行った表側ヨーク肩ミシン地縫いが見えます。このミシン目を軽く隠して躾仮縫い止めを行います。

【工程No29-②説明】
※躾仮縫い止めを終了すると図のようになります。表側ヨーク肩ミシン地縫いが少し隠れるように正確に躾仮縫い止めをしてください。

【工程No30】表側ヨーク肩コバステッチで裏側ヨーク肩を縫い止め

①

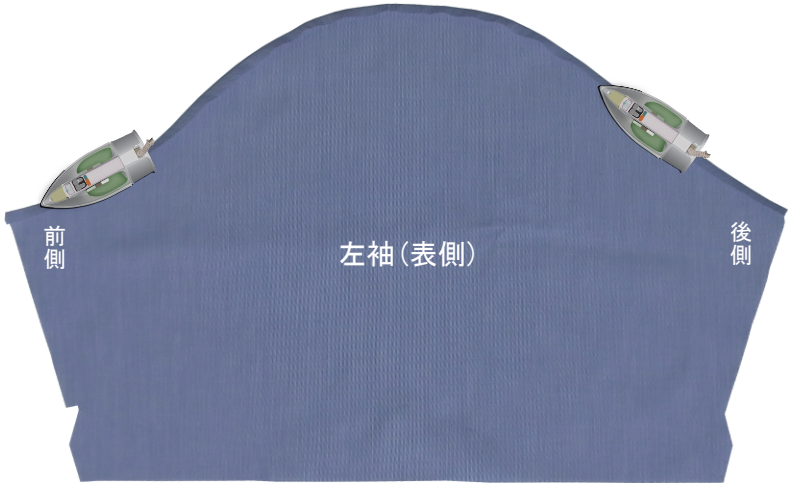
②

【工程No30-①説明】
※表からヨーク肩へコバステッチを掛けます。

【工程No30-②説明】
※裏側の躾仮縫い止めが正確に出来ていると、表からミシン地縫いを行っても折った箇所からのステッチ控え位置は平行に表現できます。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No31】袖山折り伏せアイロン折り



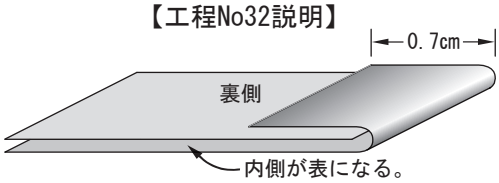
【工程No31説明】

※袖山は折り伏せ処理を行うためのアイロン折りをします。当テキストのステッチ巾は６㎜なので、折る分は７㎜で表側に折ってください。

※折り代は平行に折ってください。折る巾が均一になっていない場合、最後に掛けるステッチが蛇行することになるので平行に折るよう心掛けてください。

【工程No32】折り伏せ、袖山折り間に身頃を挟み込み 躾仮縫い止め

【工程No32説明】



※袖山を表側へアイロン折りを行った後、合わせの内側が表になるようにし、隙間が出来ないよう先端までしっかり合わせながら蝋引きカタン糸で躾止めを行います。

※この箇所は直接ミシンで縫うと縫いずれを起こすので、慣れるまでは躾糸で止めてから縫うことをお勧めします。

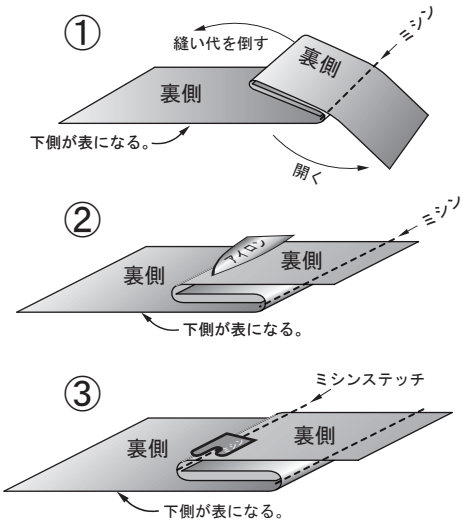
【工程No33】折り伏せ、身頃と袖付けミシン地縫い

【工程No33説明】

※折り伏せの方法はドレス・シャツでも説明していますが、手加減と言うことを考えると、折り伏せアイロンの巾は、縫い代を正確に考えると0.7cmですが、折る巾を0.5mm程狭くすると0.65cmになります。その分、縫い代の巾を0.5mm広くして0.75cmにすることで、折った断ち切り部分を一緒に縫わないで済みます。一緒に縫ってしまうと生地の厚みが加わってしまいます。

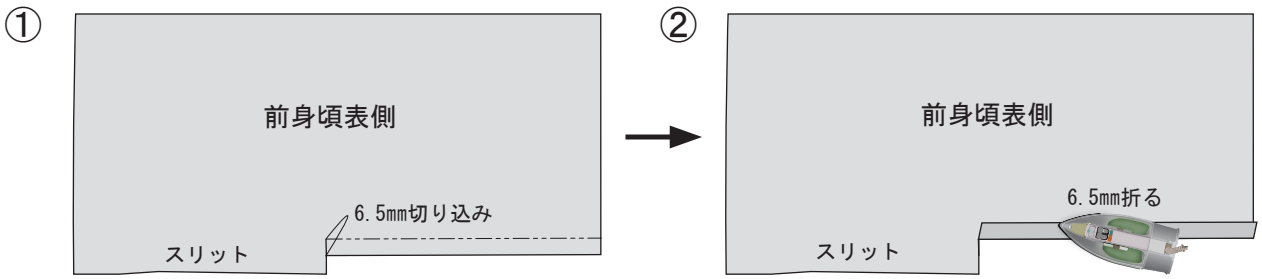
掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No34】身頃側へ縫い代を倒し、折り伏せステッチ掛け



【工程No34説明】
※折り伏せ縫い代押さえステッチ掛けですが、縫い代を身頃側に倒したところからのミシンステッチは本来表側から掛けた方が美しく出来あがります。しかし、裏が見えない状況でミシンの倒し巾を平行にすることは初心者には困難な作業です。従って当テキストでは、裏からミシンステッチを掛ける方法で説明しています。

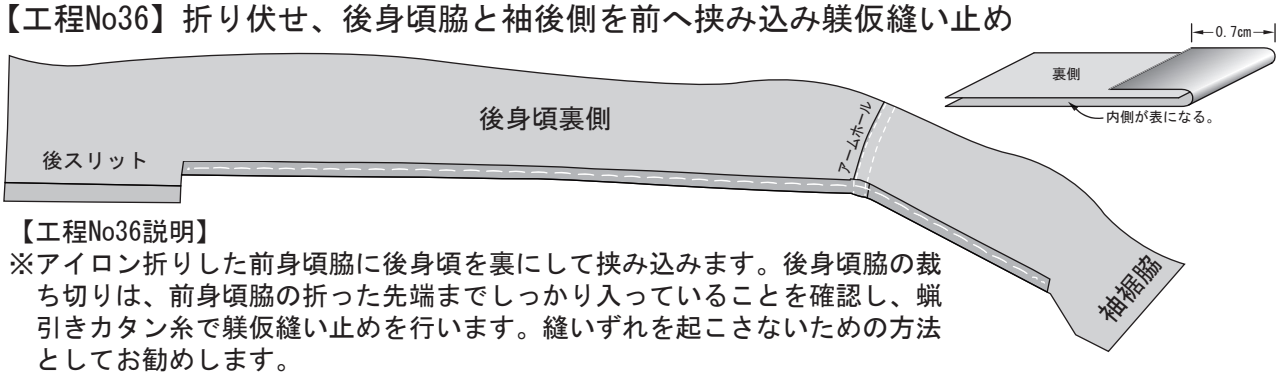
【工程No35】前身頃脇、袖前側折り伏せアイロン折り



【工程No35-①説明】
※前身頃脇下裾のスリット止まり部分に折り代分6.5mmの切り込みを入れます。

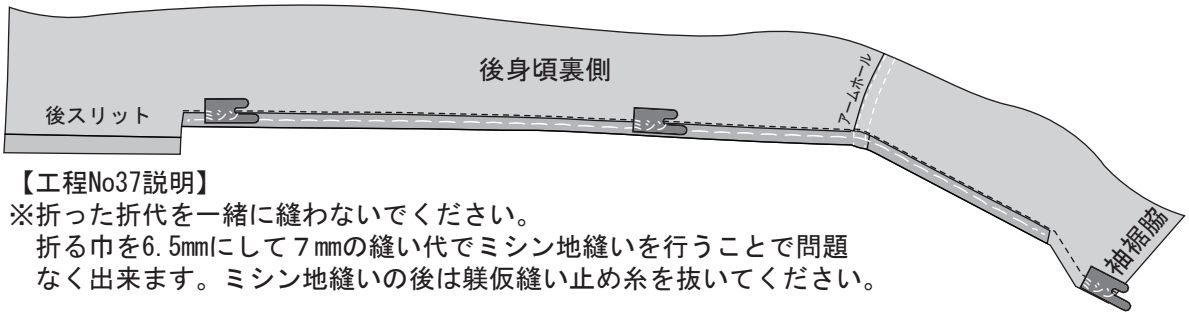
【工程No35-②説明】
※７mmの切り込みを入れた折り代をスリット止まりから袖裾までアイロン折りを行います。

【工程No36】折り伏せ、後身頃脇と袖後側を前へ挟み込み躾仮縫い止め



【工程No36説明】
※アイロン折りした前身頃脇に後身頃を裏にして挟み込みます。後身頃脇の裁ち切りは、前身頃脇の折った先端までしっかり入っていることを確認し、蝋引きカタン糸で躾仮縫い止めを行います。縫いずれを起こさないための方法としてお勧めします。

【工程No37】折り伏せ、身頃脇及び袖下側ミシン地縫い

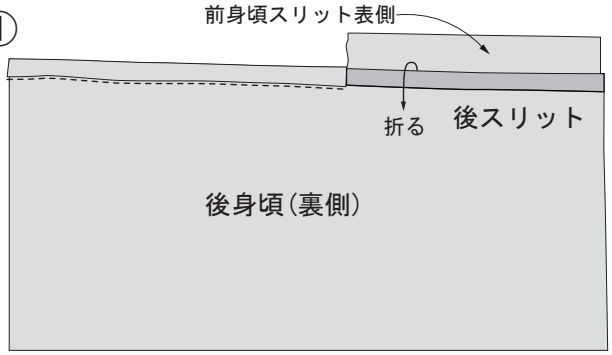


【工程No37説明】
※折った折代を一緒に縫わないでください。
折る巾を6.5mmにして７mmの縫い代でミシン地縫いを行うことで問題なく出来ます。ミシン地縫いの後は躾仮縫い止め糸を抜いてください。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

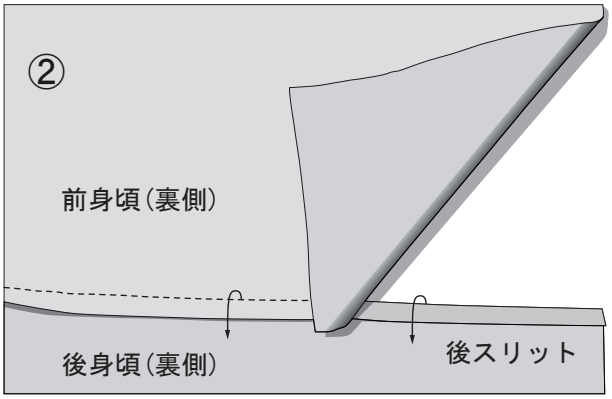
【工程No38】両脇裾、折り伏せスリット処理

①



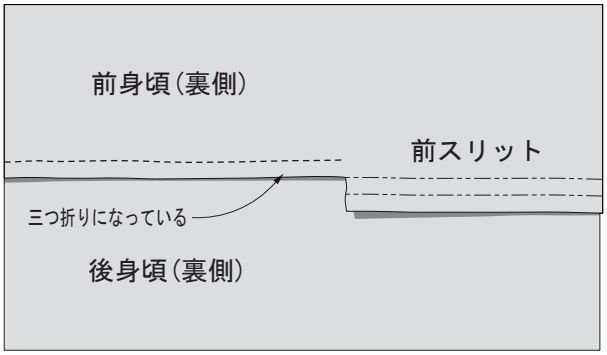
【工程No38-①説明】
※前工程で行われた作業からスリットの処理に入ります。この状態で後身頃スリット折り代を矢印の方向にアイロン折りします。

②



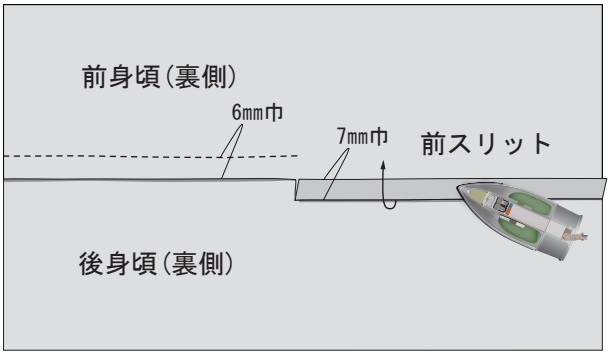
【工程No38-②説明】
※下側から前身頃(裏側)を図のように出すと縫い代は矢印側に倒れます。従ってスリットを含め脇の縫い代は更に折られて三つ折り状態になります。

③



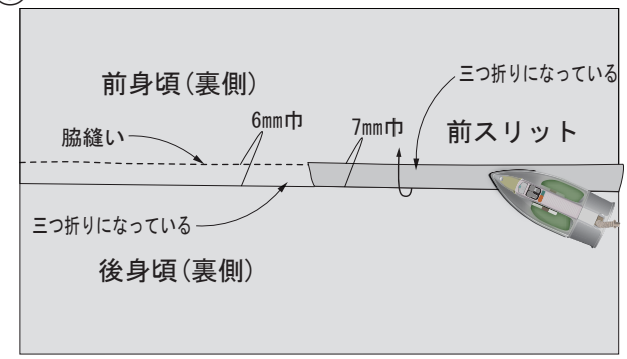
【工程No38-③説明】
※前スリットを元に戻し、図の二点鎖線のようにアイロン折りしますが、脇縫い目の延長がつながるように、折り代巾は地縫い巾より少し広く折ってください。

④



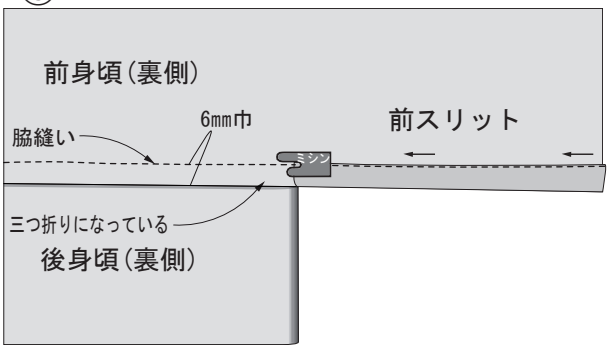
【工程No38-④説明】
※縫い代巾が６mmであれば、７mm巾を矢印方向に１回アイロン折りしてください。

⑤



【工程No38-⑤説明】
※更に前身頃側のスリットをもう一度矢印方向にアイロン折りを行います。前スリットが三つ折りになった時、脇縫い巾より１mm程巾が広くなるようアイロン折りをしてください。

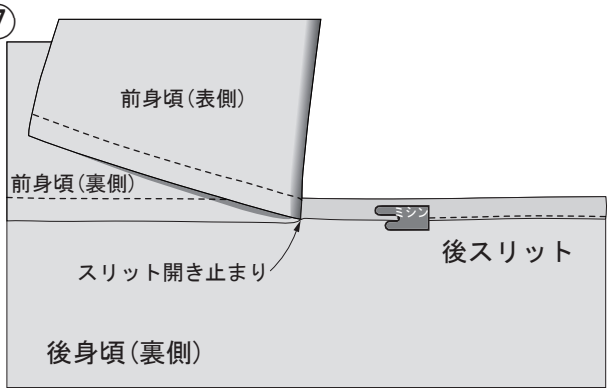
⑥



【工程No38-⑥説明】
※後身頃のスリットを一緒に縫わないように外し、前身頃のスリットのみを裾からコバステッチで止め縫いを行いますが、最後に脇縫いミシン目につながるようにミシン縫いをしてください。

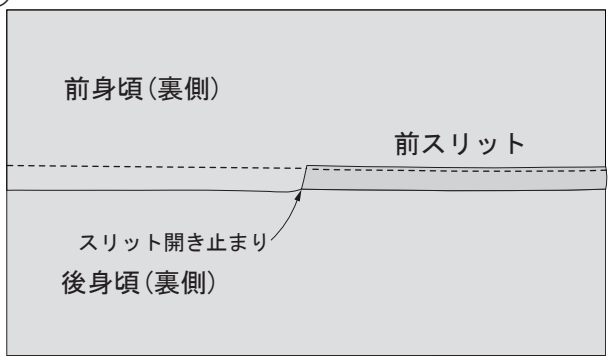
掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

⑦



【工程No38-⑦説明】
※裾側から後スリット開き止まりに向けてコバステッチ縫いを行いスリット開き止まりでミシンを止めますが、ミシンの針は抜かないでください。

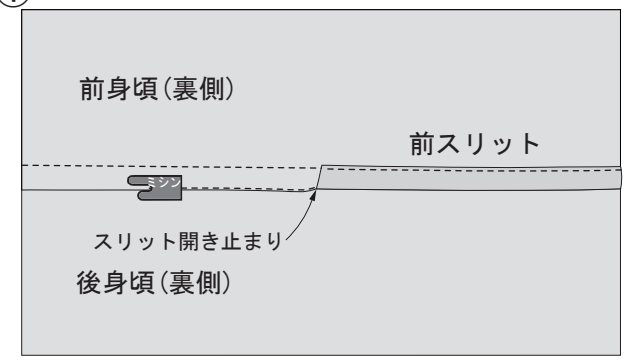
⑧



【工程No38-⑧説明】
※スリット開き止まりまで後スリットを縫ったらミシン針を上げずに前スリットを元に戻します。ここから１針脇に針を移動し次の工程に入ります。

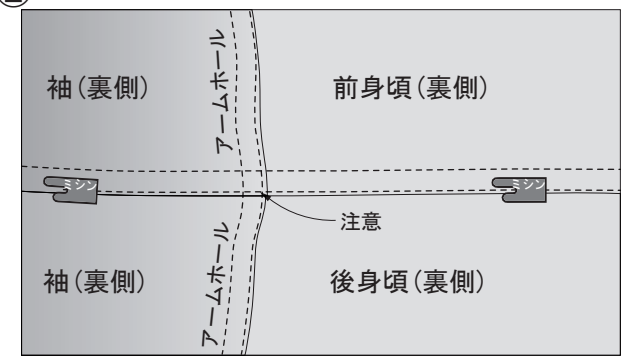
【工程No39】後身頃側へ縫い代を倒し、折り伏せステッチ掛け

①



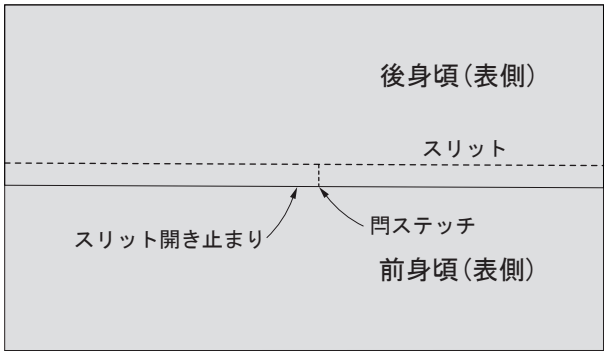
【工程No39-①説明】
※スリット開き止まりから後身頃側へ縫い代を倒し、折り伏せステッチ掛けを行います。前に掛けたミシン地縫いと平行になるのが理想的です。袖裾に向けて折り伏せステッチを掛けてください。

②



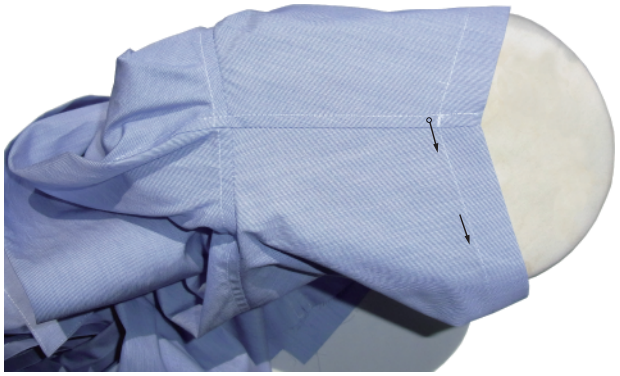
【工程No39-②説明】
※袖下のアームホールは縫い代が重なっていて厚みがあり、地縫い曲がりや押さえ金が十分に押さえられない為、糸浮きを生ずる場合があります。この時は目打ちを使い浮きをフォローします。

【工程No40】スリット閂ミシン止め



【工程No40説明】
※スリット処理の最後は閂ミシン止めです。スリット裂けを防ぐために掛けてください。スリット開き止まりから約５㎜～７㎜離れた箇所にスリット閂ミシン止めを３回程返し縫いをします。

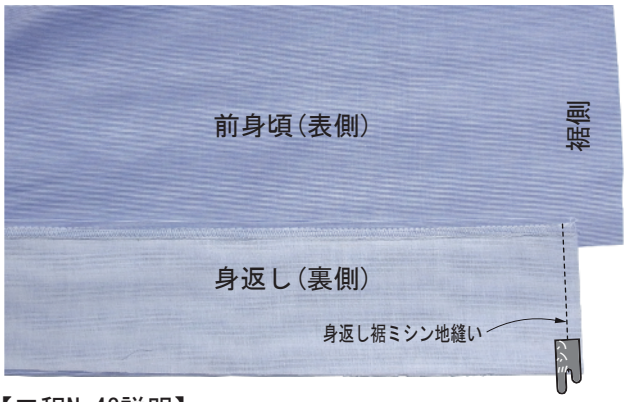
【工程No41】袖裾三つ折りステッチ



【工程No41説明】
※三つ折りアイロン掛けを行ってからステッチ掛けをしてください。脇袖裾のステッチが掛かっている箇所から始め、一周回って開始地点で返し縫いをします。この方が丈夫に仕上がります。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

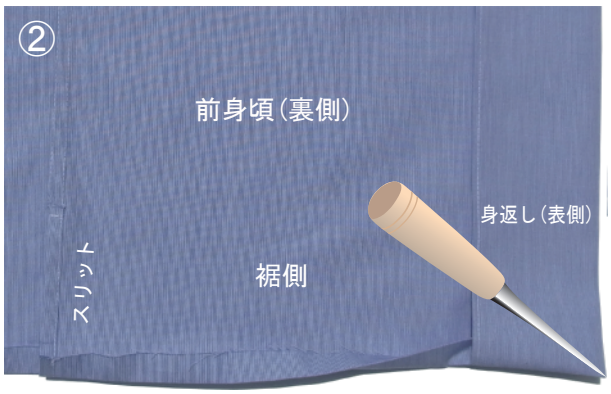
【工程No42】前身頃・身返し裾ミシン地縫い



【工程No42説明】
※身返しを表側に折って裾を１cmの巾でミシン地縫いを行います。ミシン地縫いがはみ出さないように、返し縫いで始め返し縫いで終了します。

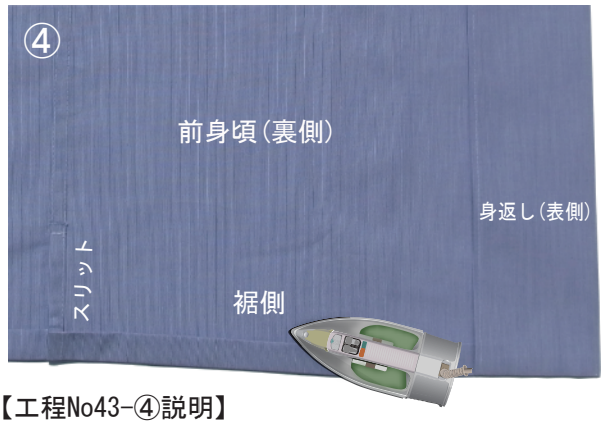
【工程No43】身頃裾三つ折りステッチ処理

【工程No43-①説明】
※ステッチ処理を行う前に身返し裾ミシン地縫い位置まで最初にヘムをアイロン折りします。身返しミシン地縫いより少し手前を平行に折ります。

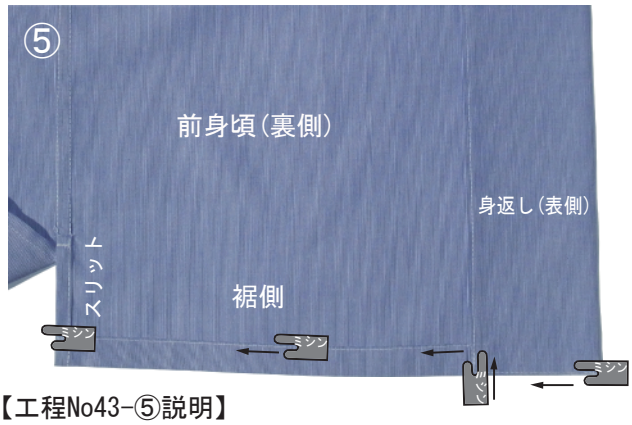


【工程No43-②説明】
※身返しを返してから裾の地縫い部分の先に目打ちを刺して裾地縫いまで引き出します。

【工程No43-③説明】
※身返しを返した後にヘムと身返しが美しくつながるように身返し裾の縫い代をアイロン割りします。このアイロン割りは身返し裾の全てを割る必要はありません。



【工程No43-④説明】
※再び裾ヘムを三つ折りにして身返しから脇及び後身頃へとアイロンを掛けます。この時にヘム巾は均一の巾にし、スリットが段差にならないよう調整しながらアイロンを掛けます。



【工程No43-⑤説明】
※身返しの裾から返し縫いで始め、身返しの終わりで縦にヘムを止めて、三つ折りされたヘムの端をコバステッチでミシン縫いします。他の裾も同じようにミシン縫いしてください。

【工程No44】釦ホールかがり

※ドレス・シャツ工程No48を参照。

【工程No45】釦付け

※ドレス・シャツ工程No49を参照。

【工程No45説明】
※チーループ釦は図の様に付けてください。その他の釦付けに関しては、従来と同じ方法で行ってください。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

メンズ技術大百科-シャツ編-　サンプルはいかがでしたでしょうか。

今回のサンプルでは、ソーイングのごく一部分のみの発表でしたが、本編では、パターン作成・ソーイング共に図をふんだんに取り入れ解説しています。

サンプルを見て、今の自分に本当に必要かどうかを良く考えた上で、もし必要であるならば、下記のサイトよりお買い求めください。
http://www.encyclopedia.iguma.net/

現時点で必要ない場合、又は、「このサンプルだけで知りたい事がわかっちゃった！」という方は、必要になったときに、またメンズ技術大百科を思い出してください。急に販売停止にしたりしません。いつまでもあなたをお待ちしております。

それではまた、本編でお会いしましょう。

井口　喜正

※【電子書籍のご購入を検討されている場合】

電子書籍版をご購入の場合、もちろんそのままパソコンを使用してメンズ技術大百科を活用して頂いても構いませんが、より素早いページ検索と情報の一元化の為、印刷を推奨しています（個人用途に限ります）。

例えば、印刷したページを別途購入したバインダー等に保存し、学習上気付いた事などを一緒にファイリングしておくと大変便利です。また、メンズ技術大百科には、【〇〇を参照】などの記載も多いので、電子書籍と印刷したバインダーの両方を活用すれば、参照ページの確認も素早く行えます。

よって、もし上記のように活用したいとお考えの場合は、今回ご提供したサンプルがプリンターで綺麗に印刷できるかどうかをご確認ください。